

花きの県別生産出荷概況(9月見通し)

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積	出荷見込み		9月のピーク(%)			主産地
				期間	ha	出荷総数	京浜地域向	上旬	中旬	下旬	
				(ピーク)	(前年比)	千本	千本				
トルコギキョウ	北海道	促成～	ピッコロサスノー	5～11月	2214	4021		0%	0%	0%	由仁町 JAそらち南
			ジャスニーホワイト クラリスピンク 海ほのか	8～9月	98%	101%		0%	0%	0%	
	青森		ミンガマリン	6月～11月	5.4	340	250	30	40	30	つがる市 田舎館村
			ハレオグリーン ミンクイエロー	( )	1	( )	( )				
	秋田	施設	パレオシリーズ	6月～12月	11	700	380	40	30	30	秋田おばこ 秋田ふるさと こまち、うご
			ボヤージュ レイナW等	(8月～10月)	105%	107%	108%				
山形	加温 無加温 シェード・加温	ホヤージュシリーズ	6～11月	25	1025	768	40	35	25	JA新庄市 JA新庄もがみ JA山形もがみ JA鶴岡 JA庄内たがわ JA庄内みどり JA山形市 ほか	
		ロゼーナシリーズ セラブシリーズ コレゾライトピンク 他白八重 他ピンク八重 他黄八重 一重 他	(7～10月)	(98%)	(100%)	(100%)					
福島	施設	ホヤージュホワイト	5～11月	11	520	430	35%	35%	30%	あいづ 坂下 猪苗代 いいで	
		クラリスピンク レイナホワイト 他	(8-9月)	(100%)	(99%)	(99%)					
熊本	施設	サカタ系 タキイ系 ミヨシ系 など			463		32%	41%	27%	熊本市 やつしろ あまくさ くま 他	
バラ	茨城	施設	アマダ、アバ ランチェ、サ ムライほか	周年	8	320	280	33	33	33	古河市、石岡 市他
	群馬	施設	アバラン チェ、 サムライ08他	周年	14.2	922.7	677.3	33	33	33	前橋市 昭和村 富岡市
				(5～11 月)	(100)	(100)	(100)				
	山梨	周年 冬期休 眠	ローテロー ザ、サムライ 等	周年	2.5	290	280	35	35	30	笛吹市御坂町
	静岡	施設	サムライ アヴァランチェ プレディブル シンディ	周年		1100	900	30	30	40	JAしみず JA大井川 JA掛川市 JA遠州夢咲
					100%	100%					
大分	施設	Mシリーズ Jシリーズ 他	周年	6.5	150	50	30	30	40	山香 九重町飯田 玖珠九重	



品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコギキョウ	北海道	例年に比べ出荷量が減少している。 (6月の天候が影響していると思われる。) お盆明け出荷量が増える可能性有り。	<b>現状</b> 長野、福島、秋田、岩手と順調に増えてきており、お盆は安定相場で推移。下旬以降需要も無く、数量は増えてくるので単価は下げながらも例年並みの販売に努める。
	青森	好天が続いていることから生育は順調に推移しており、病害虫の発生もない。 好天推移に加え、乾燥傾向からやや短径開花が予想され、9月の出荷ピークはやや早まり彼岸前となる見込み。	<b>見通し</b> 大田花き 秋田、岩手、福島と数量は順調に切れてきているので、数量は増えていく。残暑も残り末端の動きが鈍いことが予想されるが、婚礼需要が少しづつ戻ってくれば例年並みの相場となる。
	秋田	昨年に比べて生育に遅れが出ており、8/15現在で出荷数量が前年比94%となっている。越冬から秋だしへの切替を行っている産地もあるため、9月以降数量の回復が見込まれる。	FAJ 北海道、山形、長野、福島の高冷地出荷とまり入荷数量増加。プライダルなどで引き合いあり。
	山形	短日処理を実施したものは、一部品種で処理効果が低く、発蕾しているものの、苗の活着状態もよく概ね順調である。	東日本板橋花き 8月後半からは北海道と長野の標高が高い産地中心に出荷潤沢。 世田谷花き 遅れていた北海道産を中心に潤沢になりそう。
	福島	気温上昇により前進傾向、高冷産地についても平坦地ほどではないが前進している。7月下旬の咲遅れが8月上旬にまとまったものの、今後の出方は例年並み。	第一花き
	熊本	8月上旬から定植はスタートしており、本格的な定植ピークは8月中旬～下旬。一部で苗の生育不良にもあるが、概ね順調な生育となっている。	
バラ	茨城	・県全体の生産量がやや減少傾向。	<b>現状</b> 国内産地は暑さの影響で下位等級が非常に多く、販売に苦戦を強いられた。高冷地も上位等級少なめで非常に販売しにくい入荷であった。輸入品はケニア産の入荷が多かった。
	群馬	盆以降、夜温が低い日も増えており上位等級比率も徐々に増えてくる見込み。また、一部産地で炭酸ガスの周年施用とヒートポンプによる夜冷の効果で秋口の増収、品質向上が期待される。	<b>見通し</b> 大田花き 秋のプライダル需要には若干の前進気味が見られるので、多少不足感が出る可能性がある。残暑次第では8月同様に下位等級多めの荷姿になる。山形、宮城など高冷地中心の販売。輸入品は本格的に各国より出荷が始まるが、相場次第で量が決まる。
	山梨	生育は順調で昨年と同じ。	FAJ 宴会需要が徐々に始まり引き合い強まる見込み。月後半に向け活発な取引に。
	静岡	50～60cmクラスが出荷の中心となっており、上位の発生率は低め。またポリウム不足も見られる。8月は少なめであるが9月に入れば新植分も含み増加してくる見込み。	東日本板橋花き 高温で彩花サイクルは早まり、中旬までは時期にしては多く感じる入荷量となる見込み。中下位等級の発生が下旬にかけて多くなる見込み。
	大分	9月中旬から下旬が多めとなる見込み。品種間の生育差が大きく、出荷品種にムラのある構成となる見込み。60cm中心とした出荷見込み。	世田谷花き 後半に向け引き合いが増える。入荷量も増える。婚礼需要中心の引き合い。 第一花き

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
アルストロメリア	北海道	8月に高温が続いたため、株傷みが心配される。新株からの本数は増えてきているが、全体の出荷数量は微減している。	<div data-bbox="807 277 903 322" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">現状</div> 北海道、愛知、長野、山形、青森が主産地となり、ピンク、白、黄中心の入荷。葬儀需要中心となり、引き合いも強いことから高値での取引となった。
			<div data-bbox="807 371 903 416" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見通し</div> 大田花き 各産地、新植の出荷も始まり、徐々に増加傾向。愛知、北海道、長野が中心となり、ピンク、黄、白中心に新品種の出荷も始まる。 320,000本 @85 FAJ 引き続き山形、長野より入荷。徐々に数量回復も少ない状況は続き安定した相場での取引続く。 東日本板橋花き 青森・北海道・愛知中心の入荷。業務需要中心の動き。高温が続くと焦げなどで出荷量が少なくなる。 世田谷花き 入荷量は中旬まで横ばい。一定の引き合い。 第一花き
スターチス	北海道	遅れは既に取り戻し、順調な出荷となっている。6月定植(抑制作型)は、7月下旬～8月上旬の高温により若干の前進生育となっている。	<div data-bbox="807 815 903 860" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">現状</div> シヌアータはお盆需要もあり、上旬は引き合い強かったものの、中旬以降は大きな需要も無く例年並みの取引が続いた。シネンシス系はお盆に下位等級の引き合いがあったものの、その後はシヌアータ同様落ち着いた動きとなった。
	北海道	色目のバランスに偏りがある。9月は新植の2番花、越冬株の2番花が出てくると予想。	<div data-bbox="807 909 903 954" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見通し</div> 大田花き 今後の天候にも左右されるが、彼岸需要に向けては例年並みの作付となっている。シネンシス系については徐々に終盤となり数量減少傾向となる。 FAJ 9月も北海道中心の入荷。彼岸に向けて活発な取引となる見込み。 東日本板橋花き シヌアータは多いが、HBチースは少なくなる。シヌアータ@70～30 HB@150～40。 世田谷花き L～Mクラスが中心の入荷になってくる。L@50～。 第一花き